

平成21年9月17日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘
滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成21年9月10日付け滝議第97号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育長	小 田 真 人
教育部長	舘 敏 弘
教育部指導参事	春 田 淳 一
教育部学校教育課長	中 川 啓 一
教育部学校教育課主査	鳩 山 稔
教育部学校教育課心の教育推進室主査	田 中 智 則

(総務部総務課総務グループ)

第 30 回 総務文教常任委員会

H21. 9. 18 (金) 午後 1 時 30 分
第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶 (委員動静)

1 所管からの報告について

《教 育 部》

- (1) まちづくり懇談会における小中学校の適正配置の説明について
- (2) 平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果について

(資 料) 学校教育課
(資 料) 心の教育推進室

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第30回 総務文教常任委員会

H21. 9. 18(金)13:30～

第一委員会室

開 会 13:30

委員動静報告

委員長 関藤委員欠席。議長出席。委員外議員～渡辺議員、清水議員。

1 所管からの報告事項について

委員長 (1) について説明願う。

(1) まちづくり懇談会における小中学校の適正配置の説明について

館部長 (別紙資料に基づき説明する。)

教育長 今回のまちづくり懇談会では、耐震の関係も含めて適正配置に重点を置いて検討を進めてきたが、具体的なことではなく、基本的に教育がまちづくりの中でどのような役割を果たしていくのかということを議論していくために、教育委員会が考えている教育のあり方というものを市民の方に示し、共通理解をしていただきたいと考えている。その後、具体的な適正配置計画を示すことになるので、計画作成の時期が若干おくれると思われる。その点理解願いたい。

委員長 説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内 今回の一般質問の通告で私と大谷委員が、適正配置について質問することになっている。この総務文教常任委員会でこの関係についてすべて行くと、一般質問はできない。まちづくり懇談会前に報告する予定であったのなら、なぜもっと早い時期に報告できなかったのか伺う。

教育長 まちづくり懇談会の中で適正配置についてどのような形で説明すべきか教育委員会議などでさまざま議論をしてきた。その結果を踏まえて、まちづくり懇談会での説明内容について、この総務文教常任委員会で報告させていただいた。報告がおくれたことに対しおわびする。

委員長 若干休憩する。

休 憩 13:45

再 開 13:49

委員長 休憩前に引き続き会議を再開する。

窪之内 P2の適正配置の基本的考え方の7項目は、適正な学級・学校規模を基準に掲げている。これは、全く違うと思う。この内容であればクラスがえのできない少人数学級は必要がないと誤解を招く。少人数学級の長所はこれまで、いろいろな会議で意見が上がっていた。このような固定した考え方で項目を列挙するのをやめていただきたいと思うが考えを伺う。

館部長 P2の基本的な考え方というのは、これまでの議論を整理したもので、学校を特定してはいない。できればクラスがえのできるような学校環境づくりが必要ではないかということで、考えを固定しているわけではない。こういうことを踏まえて市民の方などと議論していこうと考えている。

窪之内 適正な学級・学校規模ということは否定しない。滝川市の現状の中で適正配置を考えていくことが必要だと思う。少人数学級に関することを盛り込まずに考えると誤解を招くおそれがある。滝川市に合った適正配置を行うのであればこのような表現にはならないと思うがいかがか。

教育長 平成19年度の基本方針からこの基本的な考え方や適正規模は変わっていない。

	この方針に基づいて原則的に望ましい規模等を示した。滝川市の現状を考えたとき、これに合致していない学校というのは当然出てくる。それも含めて、少子化を見越した学校のあり方や子供たちの教育機会の均等を念頭に置き、滝川市の学校全体をどうするかを議論していきたいということである。合致しないから適正配置を考えるということではなく、全市的にとらえて、議論していきたい。このことをまちづくり懇談会でも誤解を招かないように強調して説明しようと思う。
委員長 大 谷	他に質疑はあるか。 まちづくり懇談会の参加者の状況を見ると余り関心がないように思う。PTAなどがまちづくり懇談会にもっと多く参加できるような取り組みを考えているのか伺う。
館 部 長	まちづくり懇談会で、この問題に関心のある方の参加者は少ないのが現状である。PTAや未就学児を持つ保護者と地域懇談会などを行っていきたいと考えている。
委員長 井 上	他に質疑はあるか。 スケジュールの関係だが、平成 21 年度はPTAとの懇談会の後、地域懇談会を実施することになるのか。その流れについて伺う。
教 育 長	スケジュールの流れについて、案をなるべく早く示したい。現段階では、PTAまたは未就学児を持つ保護者と総体的な内容の懇談を実施し、地域懇談会では具体的な内容で議論をしたいと考えている。また、まちづくり懇談会の中でも地域の方に意見を伺う機会はあると思う。
井 上	まちづくりと教育行政は車の両輪のように密接に関係している。そのことを踏まえて今後考えてもらいたい。
館 部 長	資料の訂正がある。滝川市総合計画の期間は示されていないので、資料 P 3 の滝川市総合計画（H23～32）の中の 32 を消していただきたい。
委員長 清水委員外議員	他に質疑はあるか。 P 2 の適正配置の基本的考え方は、財政、国及び道の適正配置基準をもとに作成したものだと思うが、まちづくり懇談会に示す際には、これらの根拠も示す必要があると思うがいかがか。
教 育 長	基本方針の時点で、国及び道の基準を受けて滝川市の基準を考えている。その説明も行う。滝川市独自の考え方を示し、その根拠を示す方法をとろうと考えている。財政の問題だが、交付税の算定は学校数、教員数などにより決定されるので、適正配置に大きな影響はないと思う。しかし、耐震化や老朽化など施設整備に対処しなければならないのが現状であり、このハード的な部分考えたとき、ソフト的な部分を抜きに議論するわけにはいかないで、ソフト的な部分を含めて、滝川市独自の基本的考え方を示した。
清水委員外議員	① 施設整備のため適正配置を実施することが財政上望ましいという説明だと思うが、実際に市民に説明する際、金額的なものを提示すべきだと思うがいかがか。 ② P 2 に書かれている内容は一方的だと思う。きちんと反対意見も取り入れた内容の文書にすべきと考えるがいかがか。
春田指導参事	② 一方的ではなく、これは昨年度、適正配置の検討について諮問し、滝川市の望ましい姿として出された答申を踏まえて、教育委員会として適正規模の考え方を示したものである。もちろんいろいろな意見があると思うが、今後、P

	T Aなどとの懇談を通じて意見を伺っていききたい。
委員 長	他に質疑はあるか。
渡辺委員外議員	参考までに資料の表現について語尾に望ましいなどを付け加えたほうがよいと思う。
委員 長	他に質疑はあるか。（なし）（１）について報告済みとする。（２）について説明願う。
	（２）平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果について
田中主査	（別紙資料に基づき説明する。）
委員 長	プレス空知の傍聴を許可する。
	説明が終わった。質疑はあるか。
窪之内	① 資料P 2の表に未受験数があるが受験しなかった主な理由を伺う。
	② 資料P 4にいじめに関する項目があるが、小中学校ともに、100%に至っていない。滝川市にとってこの点は気になるところである。その理由について伺う。
田中主査	① 未受験の主な理由として小学校では病欠、中学校では病欠及び不登校である。
	② いじめに関する回答で、質問項目に対して、４つの選択肢で答えることになっている。１番が当てはまる、２番がどちらかと言えば当てはまる、３番はどちらかと言えば当てはまらない、４番が当てはまらない、という選択肢で、中学校では84.1%は、１番及び２番を選んだ生徒ということである。中学校において、いじめはどんな理由があってもいけないと考える生徒が全国、全道よりも低いということを教育委員会でも重く受けとめている。その対策として、例えば、滝川市こども会議を実施し、各学校の生徒会、児童会に集まってもらい、自校のいじめ撲滅へ向けた取り組みについて発表し、いじめ撲滅の取り組みを滝川市内に拡散させようと考えている。また、道徳教育の充実を図り、その両面からいじめについて、いけないことであるという意識を高めるよう推進していきたいと考えている。
窪之内	① 未受験の中に特別支援学級の子供は含まれているのか伺う。
	② ４つの選択肢だけで、自由に記載する欄はなかったのか伺う。
	③ 記名式なので、いじめに関していけないことではないと回答した子供は特定できる。何らかの形でその子供たちに対処する必要があるのではないかなと思うが見解を伺う。
田中主査	① 特別支援学級の子供も知的障害を持っている児童生徒以外は、受験している。
	② 回答形式は、調査がマークシート方式となっており、自由記述欄は設けられていなかった。
春田指導参事	③ この調査では、学力のほうが脚光を浴びているが、教育委員会としては、学習状況調査で表れた、一人一人の学習状況、学校全体としての学習状況も分析項目として重要視している。生徒になぜいじめはいけないことだと思わないのかと直接問うのは問題だと思う。自分の学級、学年及び学校の状況を把握し、それぞれの学校のいじめに対する取り組みの不十分な点を各学校が分析した上で対策していくことが重要だと考えている。
窪之内	朝食欠食率が全国、全道値よりも高い。これをゼロにしていく取り組みについて、これまで行ってきたが、このような結果になってしまったという認識でよ

春田指導参事	いか伺う。 全国的に早寝早起き朝ごはん運動を推奨しながら取り組んできた。中学校では昨年よりも数字は下回っているが、小学校では昨年と変わらず、残念な結果となった。少しでもこのような状況が改善されるように、学校及び家庭でできる取り組みを進めていきたいと考えている。
委員 長 井 上	他に質疑はあるか。 ① 学習状況の傾向で、国語の勉強が好きであるとの回答が 12 ポイント程度ふえているがその理由について伺う。 ② 国語や算数に関しての質問はあるが、理科など他の教科に対しての質問もあるのか伺う。
田中主査	② この学力調査では、国語と算数の 2 教科で実施されているので、質問紙のほうもこの 2 教科となっている。 ① 子供の発達段階とも関係してくるのだが、算数は学年によって難易度が徐々に高くなるが、国語は算数ほど高くはならないために、相対的に国語が好きだと回答したのではないかと思う。
委員 長 議 長	他に質疑はあるか。 質問紙調査の結果はきちんと数字が出ているが、教科に関する調査の結果では、はっきりとした数字が示されていない。このことについて、教育委員会議などで議論されなかったのか伺う。
教 育 長	数字を公表することの是非については、教育委員会議で数字を公表することで学力が注目され、学習状況は軽視されてしまうのではないかなど、いろいろな意見があったが、最終的には全会一致で非公開にすることに決定した。
委員 長 清水委員外議員	他に質疑はあるか。 ① 学力が全国、全道よりも下回っている。教育委員会、学校管理職あるいは教師がどのように受けとめて、どのような指導をしているのか伺う。 ② 全国値よりも低いということ以前に俗に言う、落ちこぼれの対策はどうなっているのか伺う。
春田指導参事	① 今回の学力・学習状況調査は 4 月の調査であり、その結果が今出てきたということである。現在、各学校では昨年の学力・学習状況調査の結果を踏まえて、調査結果の活用ということで、21 年度学力向上プランの作成を実施している。各学校がそれぞれ分析をし、取り組みをしている。 ② 1 時間の中ですべての生徒に確実に学力をつけさせるのは難しい。一人一人の前提となる学力や能力に違いがあるので、1 時間の中で十分にできないことを家庭にも協力を求め、学力は学校だけでなく家庭でもつけてほしいとお願いしている。もう一つは学校の自主的な努力として、教育委員会の考え方も踏まえて、放課後の学習相談会という形で、特に国語、算数について勉強したいという希望者を対象に学習相談員、退職教員活用事業による教員または地域ボランティアの方たちによる補習を実施している学校もある。また、一番大事なのは、1 時間の中できちんとその目標を一人一人に到達させることであるので、学習指導の工夫や学習教材の活用方法、教員の校内研修の充実を図ることに力を入れている。この取り組みの結果が来年出るように、今後とも検証を含め実施していきたい。
清水委員外議員	文部科学省が調べた結果ではなく、教育委員会や現場の先生たちが調べた個々の生徒たちの学力状況の実態を、教育委員会議や議会に対し、報告してもらい

春田指導参事	たいと思うが見解を伺う。 各学校では一人一人の子供たちに確かな学力が定着するように授業を行っているが、場合によっては内容を理解できない子供も出てくる。繰り返し指導し、確実なものにする努力をし、その学年で定着すべき学力はその学年のうちにと行うことを行っている。今回の調査は4月の調査でまとめられたものが公表されたということで、今の段階で教育委員会として点数について言及するつもりはない。それよりも大事なことは、日常どれだけの取り組みをしているかである。参観日などに保護者や地域の方に見てもらおう機会もあるので、是非学校の状況を見ていただきたい。
委員長 井上	他に質疑はあるか。 先ほど窪之内委員の質疑にもあったが、いじめに関して、数値が全国、全道値よりも低い。いじめの問題は、現在、滝川市が取り組んでいる重要課題である。この結果をどう考え、今後検討していくのか伺う。
教育長	指摘されたとおり、学力・学習状況調査が始まって以来、特に中学生のいじめに関する意識が低いことを重く受けとめている。さまざまな取り組みをしている中、ここの数値を見るだけではなくて、他項目の数値からも具体的な対策を立てることによって、いじめに関する数値が上がる可能性もあると思われる。この学習状況調査は77項目の質問によるもので、いじめだけをターゲットとして施策を組むのではなくて、さまざまな項目をクロス集計し、相関性が見られる場合は、その項目の対策も同時に行っていきたいと考えている。
井上 委員長	この問題に対しては、総力を挙げて取り組んでももらいたい。 私から質疑させていただく。 ① P3の調査結果について、数字は公表しないということだが、同程度をプラスマイナス3%以内とした理由について伺う。 ② 平成20年度の調査からその後に向けて、教育委員会として数値目標があったと思うのだが、特に重要視をして取り組んだことの成果について伺う。 ③ 学習状況調査の大部分の結果が、全国、全道値を下回っている。先ほどいじめの関係の話もあったが、ほかに特に注視している項目があれば伺う。
春田指導参事	① プラスマイナス3%以内の考え方だが、平成19年度に学力・学習状況調査が全国一斉に開始されたときから、北海道教育委員会の考え方で、数値は公表できないが、プラスマイナス3%以内を同程度としており、滝川市もこの方法に準じている。 ② 教育委員会として数値目標は持っていないが、項目の中で全国、全道を下回るものに対しては、少なくとも全道を超え、全国に並ぶように学校へ働きかけを行っている。 ③ 特に注視している項目として、77項目ある中から今回抜粋し、速報として数値を出したが、これを分析し、各学校とともに取り組みをしていきたいと思う。また、クロス集計により項目を関連させ分析する必要もあると考えている。
委員長 春田指導参事	今後の取り組みに関係して、数値目標は定めたほうがよいと思うが考えを伺う。 単純に全道を超えればよいというのではなくて、どう取り組んだかが求められると思うので、今年度の結果を分析の上で、今後検討したいと思う。
教育長	学力・学習状況調査の結果を受けて、例えば、数学ではこういう部分がよくできているなど、教育委員会が作成したものをこれまで総務文教常任委員会で報告させていただいている。今年度も同様の報告をさせてもらう。

委 員 長 副委員長 春田指導参事	他に質疑はあるか。 この結果を学校の教師はどのようにとらえているか伺う。 滝川市ではこの調査のほかに、標準的な学力検査も実施している。昨年までの分析の中では、この調査と標準的な学力検査の結果に大きな違いはなかった。また、過去2年間の分析結果を見るとさほど変わりはないので、意識的に大きな変化はなかったようである。
委 員 長	他に質疑はあるか。（なし）（2）について報告済みとする。
委 員 長	2 その他について 事務局より常任委員会視察について報告がある。休憩する。 休 憩 14:52 再 開 15:04
委 員 長	休憩前に引き続き会議を再開する。10月5日から8日までの常任委員会視察の日程について各自資料で確認していただきたい。ほかに何かあるか。（なし）
委 員 長	3 次回委員会の日程について 次回の委員会の日程については、正副委員長に一任願えるか。（よし） 以上をもって第30回総務文教常任委員会を閉会する。 閉 会 15:05